

発達障害（疑い）を持つ子の支援に活かす

認知行動療法

医療法人水明会佐潟荘 医局 臨床心理室

平成 29 年 4 月 23 日（日）、新潟ユニゾンプラザにて行われました日本認知・行動療法学会主催の「発達障害（疑い）を持つ子の支援に活かす認知行動療法」に北村院長と臨床心理士の高橋、長野、小林が参加しました。

この研修会では、発達障害とその傾向が疑われる子ども達へのアプローチを題材に、学習理論をベースとする幾つかの心理療法とその技法を学びました。新潟大学の神村栄一先生と田中恒彦先生による理論を学ぶ講義、畿央大学の久保賢一先生によるポジティブな行動支援を考える講義、鳥取大学の井上雅彦先生による臨床事例から児童期・青年期の支援を学ぶ講義など、プログラムも充実したものでした。

認知行動療法の活用範囲は広く、「機能分析」や「シェイピング」など日々の臨床業務に直ぐにでも取り入れられる視点や技法も学ぶことができました。当院の思春期・青年期外来にも多く来院される発達障害とその傾向のある患者様本人へのアプローチ、更には、家族支援や環境調整に活かしていければと考えております。